

カメムシ類・いもち病の発生に注意！

1. 斑点米カメムシ類

防除は出穂10日後頃(粒剤は出穂7日後頃)に行いましょう！

《生育状況と防除時期》

斑点米カメムシ類の発生は、やや多くなっています。適期防除に心がけ、遅れないように注意しましょう。

斑点米カメムシ類に対する薬剤防除の適期は、出穂7～10日後です。粒剤を施用する場合は、田面を露出させない程度に浅く湛水して、散布しましょう。



写真：滋賀県病害虫防除所

《防除時期のめやす》

品種	移植時期	出穂期予想	防除時期	
			粒剤	粉剤・液剤
コシヒカリ	5月上旬	7/28～31	8/4～7	8/7～10
	5月中旬	8/1～4	8/8～11	8/11～14
みずかがみ	4月下旬	7/16～20	7/23～27	7/26～30
	5月上旬	7/19～22	7/26～29	7/29～8/1

※「みずかがみ」は、防除時期が「コシヒカリ」より早いので注意!!

雑草管理が不十分な畦畔でイネの出穂期以降に草刈りを行うと、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになり、被害が増大する恐れがあります。やむなく行う場合は、薬剤防除直前に実施しましょう。

2. いもち病 「葉いもち」は「穂いもち」の伝染源になります！

6月中旬以降曇雨天が続き、いもち病にかかりやすい天候となっています。湖北地域でも「葉いもち」の発生を認めています。いもち病が発生しやすいほ場を中心に見回り、発生が認められた場合は防除しましょう。

水稻病害虫・穂いもち病(要注意)

斑点米カメムシ類多発(特に注意)

日照不足、大雨の影響より湖北地域の一部では、「いもち病」の発生が確認され被害が拡大しつつあります。

一方、「斑点米カメムシ類」については、管内でも多く発生しています。天候等の影響により雑草の成長が著しく早く、除草作業が遅れている圃場周辺では十分注意してください。天候の回復後は、「草刈り+適期防除」を心がけ遅れないようにしましょう。

斑点米カメムシ類の防除適期は、出穂7日～10日後が有効です。散布については、特に周辺環境を確認しドリフト(農薬飛散)のないよう注意しましょう。

いもち病防除薬剤(予防・治療効果)

防除時期	発病初期・出穂直後～穂揃期・加えて穂揃7日～10日後
薬剤名	ブラシン粉剤 DL
使用量	3kg～4kg/10a ※収穫7日前まで

斑点米カメムシ類防除薬剤

★粉剤散布の場合

防除時期	出穂後10日頃が効果的
薬剤名	スタークル粉剤 DL
使用量	3kg/10a ※収穫7日前まで

★粒剤散布の場合(粉剤散布できない所)

防除時期	出穂後7日～10日頃が効果的
薬剤名	スタークル粒剤・スタークル豆つぶ
使用量	スタークル粒剤 3kg/10a・スタークル豆つぶ 250g/10a ※収穫7日前まで

★液剤散布の場合(液剤によるセット動噴等での防除※但し無人ヘリ防除除く)

防除時期	出穂後7日～10日頃が効果的
薬剤名	スタークル液剤 10
使用量	1000倍液 60ℓ～150ℓ/10a ※収穫7日前まで